



駒ヶ根

協力隊を  
育てる会

NEWS

＝ 発 行 ＝  
駒ヶ根協力隊を育てる会事務局  
〒399-4192 駒ヶ根市赤須町20-1  
駒ヶ根市企画振興課  
電話 0265-83-2111  
E-mail:tiiki-sei@city.komagane.lg.jp

## 令和5年度の回顧と展望

会長 池崎 保

1. はじめに  
2022年5月に「駒ヶ根協力隊を育てる会（以下、「育てる会」）会長を拝命して以来、徐々にコロナ禍も下火となり、協力隊訓練所の訓練生の派遣数も増加し、2023年度は439名の訓練生が世界に派遣される中で、伊南地域の皆様におかれましては、様々な育てる会活動にご参加・ご協力頂き心より御礼申し上げます。

2. 令和5年度の活動について

「育てる会」の活動の主たる目的である地域住民の国際交流と国際理解の促進の2本柱を軸として、10月の協力隊週間・みなこいワールドフェスタの開催、1次～4次隊訓練中、訓練所内での育てる会デスクの設置による協力隊員支援プログラム説明会、駒ヶ根訓練所見学・交流ツアー、中学生体験入隊等を実施しました。

中学生体験入隊では、ある中学生が「シンハラ語を学べて嬉しかった。将来、協力隊を目指したい!」と話してくれたことは嬉しい驚きでした。また、訓練生達は、新企画の育てる会デスクにおいて、会の支援内容に大いに関心を示してくれました。

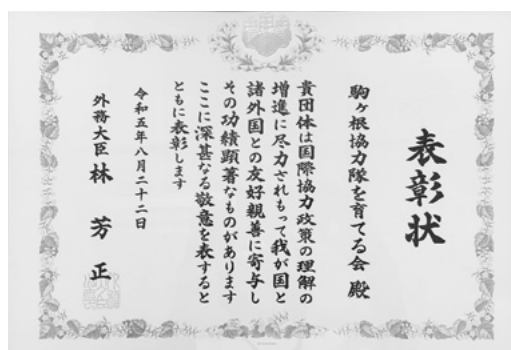
10月の協力隊週間では、伊南地域で企画（中川村でのJICA海外協力隊パネル展、飯島町でのエクアドル祭り（残念ながら中止）、宮田村での世界のビールを味わおう、駒ヶ根市でのアフリカンミュージックライブ）が盛況に実施されました。また、「育てる会」の法人会員の増加を図り、伊南地域の企業2社に加入頂きました。

8月22日には全国の協力隊を育てる会で初めて「育てる会」が地域の国際交流と国際理解の促進に寄与したことで外務大臣表彰を授与されたことは、これまで41年間の地道な活動が評価されたものでした。

さらに、昨年9月に東京で開催された全国協力隊を育てる会代表者会議では、「育てる会」が全国で最大規模の組織であり、且つ、最も活動が活発であることに各県会長から賛辞が寄せられました。

3. 今後の展望

「育てる会」としては、本来の活動に向けて伊南地域の皆様が国際理解と国際交流を更に促進しながら、豊かなまちづくりも視野に入れ、世界に目を向けつつ、充実した年となるよう「育てる会」としても創意工夫に満ちた企画（例…訓練生と市民の交流の場拡大や市民や企業のニーズに応じた協力隊週間の企画）を実施して参る所存ですので、皆様のご理解と御協力の程宜しくお願い申し上げます。



外務大臣表彰状

## 第30回 協力隊週間 ～みなこいワールドフェスタ～

実行委員長 大山 崇人

第30回 協力隊週間～みなこいワールドフェスタ～を、令和5年10月6日～29日の期間で開催しました。今回は第30回という節目を迎えた事もあり、趣向を変え、約1ヶ月間に渡る協力隊週間としました。

第30回は、「きく!あじわう!まどう!異文化」をテーマとし、それぞれのテーマに沿った部会が企画を立案しました。JICA海外協力隊パネル展(in中川)を皮切りに、アフリカンドラム体験&トークイベント、アフリカンミュージックライブ(2企画ともin駒ヶ根)、世界のビールを味わおう(in宮田)を実施しました。最終日の国際広場は4年ぶりに駒ヶ根市の広小路も歩行者天国とし、広小路・銀座通りにて開催しました。実行委員企画の「HAPPYみなこいパレード」では、赤穂中学校吹奏楽部の伴奏のもと、約60名の参加者が各国の民族衣装をまとい、大盛況となりました。協力隊関係者を中心としたブース出展のみでなく、広小路商店街や近隣施設とのコラボイベントも実施したおかげで、大勢の方の来場に繋がりました。

今回も多くの中学生、高校生、大学生、社会人にご協力頂き、参加者・来場者のみならず実行委員メンバーも楽しめる協力隊週間となりました。

そして、第30回記念事業の大前夜祭は、今までの29回に深く関わってきた方々をお招きし、紡いできた想いを今の実行委員メンバーに共有出来る良い機会になりました。

「みなこいワールドフェスタを経験して」

長野県看護大学2年 庄村 萌々

初めは協力隊へのほんの少しの興味から参加したのですが、気付けばあっという間にみなこいの魅力に引き込まれていました。私が感じる一番の魅力は、何と言っても、様々なバックグラウンドを持った「面白い」方々と出会い共に活動できる点にあります。そして彼らと活動する中で、身近な場所で地域の魅力を再認識しながら、同時に世界へ向けて視野を広げることができる、そんな最高の場所が「みなこい」だと感じています。

また、実は私は宮田村出身なのですが、大学に入るまでこのイベントを知らずにいました。意外と近くにある面白い場所・人、そして遠く感じる世界を知ることができる場として、今後はより若い世代にも魅力を感じてもらいふらっと立ち寄ることのできる場所にしたいと思っています。そんな思いを持ちながら、来年度以降さらに魅力的なみなこいワールドフェスタを皆さんと作り上げることができたら幸いです。



30回目を祝う大前夜祭



アフリカンミュージックライブ(フィナーレ)



HAPPYみなこいパレード



世界のビールを味わおう

令和5年11月11日、4年ぶりに開催し、上伊那郡内の中学生24名に参加頂きました。

## 「中学生体験入隊」は続く…

実行委員長 宮澤 正輝

「自分の人生で、影響を受けた出来事や出会いはどんなものでしたか？」 皆さん一人一人の心の中に、そんな忘れることができない出会いや出来事があると思います。自分は高校の同級生が協力隊OGで、同級会での彼女の近況報告「協力隊経験談」が協力隊との初めての出会いでした。それ以来いろんな出会いの中で今に続く協力隊と関わる活動に参加させてもらっています。

「今まで生きてきた中で、一番感動した出来事はどんな事でしたか？」そう問われたら、皆さんは即座に答えられますか？ 自分の人生で一番心に残る感動した場面は、協力隊活動に影響されてか、縁あって参加した災害ボランティアでの出来事でした。その感動が忘れられず、今でも機会があればボランティア活動に参加しています。

中学生体験入隊では、中学生にとっていろいろな出会いがあります。見たことが無い文字や聞いたことが無い言葉の響き。訓練中であるお兄さんお姉さんの、希望や楽しみに満ちた表情や元気溢れる言葉。訓練所スタッフの紹介から見える世界のいろんな国の姿。異文化理解ワークショップで感じる経験したことのない心の騒めき。

もちろん参加してくれた中学生にとって、何が心に響くのかは分かりません。それでも何か一つでも「この事は忘れずに心に留めておこう」そう思ってもらえるような出会いがあることを信じて、体験入隊は続きます。



国際理解ワークショップ



訓練生との交流



# 45年の歴史と22,000人の国際協力の人材輩出

JICA駒ヶ根 所長 木村 卓三郎



昨年10月15日に駒ヶ根に越してきましたが、カーナビで「海外協力隊入口」と案内を聞いた時には、うれしくもあり、訓練所の存在の大きさに身が引き締まる思いでした。翌16日が2023年度3次隊の入所日でした。ぞくぞくと全国から集う115名の候補者を迎える朝に、訓練所の敷地内を散策しつつ、周辺の紅葉に彩られた木々や、背後に広がる山々の絶景を見ながら、なんて素晴らしい環境だろうと思ひながら、佇んでいました。

また、訓練所近くの道路沿いに掲げられた、たくさんの「激励旗」(後になって育てる会が設置したと知りました)がなびく姿をみながら、協力隊がいかに地域に溶け込み、地元根付いた存在であるかを知りました。

ご承知の通り、当訓練所は、1979年5月の開所以来、本年で45年を迎えます。本年末には、

訓練所の受入実績は、累計で22,000人に達する見込みです。まさに新たな時代に向けた訓練所として、今後は国内課題にも貢献できる人材が育っていくことを確信しております。2020年初頭からのコロナ禍の直後は、候補者もいない場所とはなりましたが、施設内の様々な整備を行い、育てる会を中心に多くの応援団の方々や地域の皆様と粘り強い活動を進めて参りました。コロナ禍が本格的に明けた2022年度は222名、2023年度は倍増となる439名の候補者の受け入れを行うことができました。

訓練所では、施設管理、守衛、清掃、食堂、語学講師等の100名近い方々が訓練を支えています。また、訓練所の外においても、まさに「協力隊を育てる会」を中心にした、地域全体での万全の支えがあります。これほどの、地域の支えを受けている場所は他にはないと思います。ここから旅立つ隊員の活躍を支えながら、一人ひとりの心の拠り所となっていることは間違いありません。まさに、多くの方々に「協力隊を育てていただいている」ことを実感しながら、唯一無二の駒ヶ根訓練所での毎日を過ごしているところです。

引き続きご支援のほどよろしくお祈いします！

## みなこい出身隊員の活動報告

隊員名：鯉澤 耕平

派遣隊次：2022年度2次隊 派遣国：ルワンダ

東アフリカにあるルワンダ共和国に派遣されてから1年4ヶ月が経過しました。

昨年、こちらに寄稿させて頂いてから1年経ったのかと考えると時間の流れの速さを感じます。しかし、それと同時に日本では経験する事ができないような濃密な1年を過ごすことが出来ました。赴任当初は右も左も分かりませんでしたが、今では目を瞑っても歩けそうです。あんなに何を言っているのか分からなかったキニアルワンダ語も値段交渉や服のオーダーまで出来るようになりました。最初からずっとキツかった毎日の手洗い洗濯や断水だけは今も全く変わらずキツイですが、...。そんな環境なので不便な事や上手く行かない事で日々溢れています。しかし、不思議と居心地は良い国です。昨年10月に休暇を利用してヨーロッパへ遊びに行きました。久々に先進国に触れ快適な生活に幸せを感じましたが、それ以上にルワンダに帰国した時に感じた安心感が忘れられません。自分でも気づかないうちにこの国が自分のホームになっていました。それはきっとルワンダの方々が自分に協力してくれて、共に活動を行っているのが大きな要因だと思います。活動に目を移すと、昨年末に縁があり現在はルワンダのプロサッカーリーグ2部のチームでコーチとして活動しています。日本人初のプロチームコーチという事でプレッシャーも感じますが、選手が全力でピッチ上で戦う姿は国関係なく、心が熱くなります。長野県にもプロクラブがありますが、その熱気に負けないように約12,000km離れたアフリカの大地で頑張りたいと思います！



## 訓練所交流ツアー



VRルーム

JICA駒ヶ根訓練所は普通の市民にとってフラッと入ることができる施設ではありません。「気になるけれど敷居が高い」施設ではないでしょうか。

駒ヶ根協力隊を育てる会では訓練所を「地域の宝」として活動しています。またJICA駒ヶ根では「地域に開

かれた訓練所」を意識しています。そんな双方の思いを繋ぎ、地域の皆さんへ門戸を開く事業が「訓練所交流ツアー」です。

この事業は「交流」というところが大きなポイントで、施設の見学だけではなく派遣前訓練中のボランティアの皆さんと接するチャンスがあります。派遣前の皆さんと触れ合う中で、訓練所についてより深く知ってもらうことができます。これまでに2023年度2、3、4次隊、各1回開催し、延べ訓練生51名含む96名にご参加頂きました。

今後も各隊次ごとに開催していきます。訓練所へ行ったことがある方も友達をお誘いいただき是非ご参加ください。



育てる会デスク



交流ツアー

## ちいさな国際貢献運動



お礼状(ペルー) ◀

【問合せ先・回収場所】

駒ヶ根協力隊を育てる会 事務局  
駒ヶ根市役所企画振興課内 電話 83-2111 (内線248)

【対象物品】

なわとび、おりがみ

※楽器はケース付きの物のみとさせていただきます。破損や汚れがひどい物、付属品が揃っていない場合は回収できず、お持ち帰りがたい場合もありますので、あらかじめご了承ください。

当会では、右記以外にも、次のような物品のご提供を受け付けております。使わずにしまっておく物品がございましたら、ご持参ください。

- ブータン……アルトリコーダー17本、ソプラノリコーダー3本
- パラオ……ソプラノリコーダー3本
- ルワンダ……ソプラノリコーダー3本
- パラオ……鍵盤ハーモニカ2台
- ブータン……鍵盤ハーモニカ2台
- ベナン……鍵盤ハーモニカ2台
- ザンビア……水彩画セット2セット
- ジョージア……書道用具セット3セット
- ボリビア……書道用具セット2セット

**学用品のご提供ありがとうございました！**  
地域の皆さんから寄せられた学用品を、JICAを通じて世界各地の子どもたちにお届けしました。

## 会員募集中

「駒ヶ根協力隊を育てる会」では、会員を募集しております。ご関心のある方はお気軽に事務局までお問い合わせください。(会員の方で令和5年度会費未納の方は、ご協力をお願いします)

■申し込み・問い合わせ先  
事務局／駒ヶ根市企画振興課  
電話／0265-83-2111(内線248)  
E-mail／tiiki-sei@city.komagane.lg.jp

